

学校だより



川口市立元郷中学校

〒332-0003 川口市東領家 1-8-3

TEL 048-222-4143 FAX 048-225-3222

令和2年12月15日 第357号

<https://motogo-j-kawaguchi-saitama.edumap.jp>

本物の人の繋がりや温もりを

校長 高田 晶子

すっかり冬支度になってきました。校務員さんが落ち葉の掃き掃除をして生徒を迎えてくれています。今週は、生徒たちのボランティア活動も始まり、落ち葉清掃に参加してくれます。あの、カサカサとかザザザという音も元郷中学校の風物詩です。



さて、学校で進めているICT教育は、急速なGIGAスクール構想の進行により学校教育に大きな影響が出始めています。教材研究の一端ですが、教員も今後の活用方法を考えながら教材の作成に取り組んでいます。デジタルの効率の良さを生かし、進めていきたいものです。

そのような中、TVのドキュメント番組で「闇バイトの手法」について放映されていたことに気が止まり、このまま、この世の中はどのような方向に動き出していくのだろうか、と不安に思っていました。10代の若者がどんどんはまっていくというものでした。＜なぜ若者は闇バイトに手を出してしまうのだろうか＞という言葉聞いて、皆さんはどのように考えますか。「そんなものに手を出す方が悪い」と言いきって終わりにできることなのでしょうか。10代という、人を疑うことを知らない純粋な若者たちは、今の時代を一生懸命生きています。

しかし、現実、このような心理戦が始まっているのです。

- 1 困ったときにすぐそばにある
(手っ取り早く、時間短縮だから)
- 2 顔が見えなくても信用する
(生まれた時からデジタル生活。ネットはコミュニケーションツールだから)
- 3 考える間がない
(スピード、考えさせない、相談させない)
- 4 それが当たり前と思い込みやすい

デジタル化の社会で成長していく子どもたち。デジタルの活用を学びながら生活していく大人たち。ここには、埋められない生活経験値があります。「本物の人の繋がりや温もりをアナログで伝えていきたい」そう思うのは、私だけではないと思っています。

2学期間、元郷中学校の教育活動にご理解いただき、ありがとうございました。今年は状況の不安な年末となりました。お互いの思いやりを忘れずに「皆で力を合わせて」乗り越えていきたいと思います。新年は健康的に新学期を迎えられるよう祈念いたします。

1 2月の行事予定

1月の行事予定

日	曜	行事	給食	日	曜	行事	給食
16	水		○	1	金	元日 年始休業日	—
17	木		○	2	土	年始休業日	—
18	金	学期末保護者会（1，2年・5組） 14:30	○	3	日	年始休業日	—
19	土		—	4	月		—
20	日		—	5	火		—
21	月	リフレッシュデー	○	6	水	学力アップ教室	—
22	火		○	7	木		—
23	水	給食終了 学年集会・学活・大掃除	○	8	金	始業式 職員会議 避難訓練 給食開始 15:00 再登校	○
24	木	終業式 職員会議 記録通知書配布	—	9	土		—
25	金	冬季休業日～1/7 記録通知書確認 学力アップ教室	—	10	日		—
26	土	学力アップ教室	—	11	月	成人の日	—
27	日		—	12	火	第3回校長会テスト	○
28	月		—	13	水		○
29	火	年末休業日	—	14	木		○
30	水	年末休業日	—	15	金		○
31	木	年末休業日	—	※行事予定は変更される場合もあります。			

栄光の記録

◎第88回全国書画展覧会 令和2年11月22日

金賞 金子 美緒（2-1） 友部 華瑚（1-3）

銀賞 金子 紗菜（3-4） 塩先 楓雅（2-1） 松井 優介（2-2）

◎令和2年度第14回川口こども造形展出品生徒

小堀 夏帆（1-1） 酒井 舞子（1-2） 吉野 琴音（1-2） 小澤 真央（1-4）

秋山 富美（2-1） 民井さくら（2-3） 中里 優太（2-4） 北野 未桃（2-4）

木村 光希（3-1） 東海林彩乃（3-1） 森川菜津樹（3-2） 小林 亮斗（3-3）

寒冷な場面における新型コロナウイルス感染防止等のポイント

新型コロナウイルス感染症の猛威は衰えることなく、埼玉県内での感染者数も1万人を超えました。これから厳しい冬が到来します。ご家庭でも感染防止に向けて対策をより一層強化していただくようお願いいたします。

1 基本的な感染防止対策の実施

○マスクの着用（ウイルスを移さない）

○人と人の距離を確保（1mを目安に）

○「5つの場面」「感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫」を参考に

①飲酒を伴う懇親会 ②大人数や長時間におよぶ飲食 ③マスクなしでの会話

④狭い空間での共同生活 ⑤居場所の切り替わり

○3密を避ける、大声を出さない

2 寒い環境でも換気の実施

- 機械換気による常時換気を
- 機械換気が設置されていない場合は室温が下がらない範囲で(常時窓開け、室温は18℃以上を目安に)

3 適度な保湿(湿度40%以上を目安)

- 換気しながら加湿を(加湿器使用や洗濯物の室内干し)
- こまめな拭き掃除を

お知らせ

令和2年冬の交通事故防止運動実施要綱

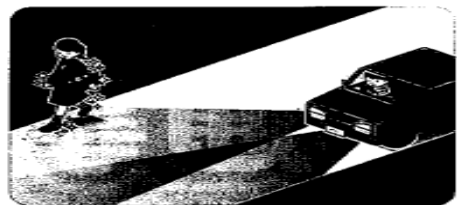
夕暮れ時と夜間の交通事故防止

歩行者は

- 明るく目立つ色の衣服や反射材を身に付けましょう。

ドライバーは

- 早めにライトを点灯し、ハイビームを積極的に活用しましょう。
- 横断歩道では歩行者優先を徹底しましょう。



12月14日、午後4時を過ぎると辺りは薄暗くなり始め、4時35分には真っ暗闇になりました。日没の速さは今後も21日(冬至)まで加速し続けます。埼玉県では現在、「冬の交通事故防止運動」を実施しています。部活動での移動や塾の行き帰りなどで自転車を利用することも多くあります。交通事故に絶対に遭うことのないよう、特に夕暮れ時には早めにライトをつけるなど対策を万全にしておきましょう。

1 スローガン

人も車も自転車も安心・安全埼玉県

2 主な推進事項

○ 夕暮れ時と夜間の交通事故防止

夕暮れ時から夜間の時間帯に交通事故が多く発生する傾向があることを訴え、子供や高齢者を始めとする歩行者自らが反射材等を着用するなどの対策を講じることで交通事故を防止する。また、ドライバーへの歩行者保護意識の向上を推進する。

- ・外出時の反射材や明るい色の服装の着用促進
- ・子供や高齢者を始めとする歩行者等に配慮した運転に関する啓発の推進
- ・早めのライト点灯とハイビームの積極的な活用の推進
- ・横断歩道での歩行者優先の徹底

<自転車の運転者>

- ・自転車は車両との認識を持ち、原則車道の左端を通行しましょう。
- ・歩道を通行する場合は車道寄りを徐行し、歩行者優先を徹底しましょう。
- ・一時停止標識のある交差点では必ず一時停止、見通しの悪い交差点では一時停止や徐行の上、確実に安全確認をしましょう。
- ・無灯火運転や二人乗り、並進、傘差し運転、イヤホンやスマートフォン等の使用、飲酒運転、いわゆる「あおり運転」は絶対にやめましょう。
- ・安全のためにも、幼児、児童には必ず乗車用ヘルメットを着用させ、大人、特に高齢者も積極的に着用しましょう。
- ・自転車に乗る場合は、必ず自転車損害保険等に参加しましょう。

ここ数年で、スマホ普及やオンラインアプリの増加・多様化にともない、中学・高校でのネットやスマホの使用をめぐる問題が深刻になっています。これは、元郷中学校でも大きな問題と捉えています。心身ともに健全な成長を願う大人の見守りは、とても大切です。

今月は「SNSの落とし穴」について、考えてみましょう。

SNSは、小学生から大人まで多くの人が利用し、アプリではLINE、Instagram、Twitter

などが人気です。ネット上でいつもつながっていて、今、その瞬間にやりとりができて、会話をしている感覚になります。「SNSの落とし穴」と言えます。

男子より女子の方が目立ち、世界的にみても女性の依存が多いようです。日本ではLINEを使う小・中高生がとても多くスマホを持ったら即LINEが当たり前とも言われています。

中学では、学年で、クラスで、部活で、週末遊びに行く仲間で、とあつという間にグループができ、多くの友達とたくさんつながっているのが今の子どもたちです。

＜学校で受ける相談には・・・＞

1 友達とけんかをしたケース

LINEのやり取りの中で、友だちとケンカをしてしまって。どうしたらいいか相談を受けることがあります。

この場合、友だちの真意が計り知れません。直接聞き取りを対面での確認を行います。やはり、相手と対面で話すことによる勘違いや問題の軽重などがすぐわかります。顔が見えない所でのやり取りは本当に難しいです。



大人が仕事上使用する時は、連絡事項が多いと思います。中学生にとって、SNS上で言葉だけで真意を伝えるのは難しく、誤解を生じやすいのです。

2 朝起きられない、提出物が出せない、整理整頓ができないケース

相談をしていると、「オンラインゲームをよくやっています」「やめられなくなって」「いつもは3時間くらいやるので、寝るのが24時を過ぎてしまいます」「学校がないと、ずうっとやっています」という言葉を多く聞くようになりました。どの相談にも「オンラインゲーム」の共通点があり、生活の乱れにつながるケースが多いです。このケースは男子に多いケースです。

オンラインゲームは、「ネットの世界は楽しい」「人には迷惑かけていない」「やって何が悪い」という意識を持ちやすく、依存になってしまうと受診し、治療をしなくてはならなくな。専門家の力が必要になります。



まず、本人の意向を聞き、ご家庭で決めたルールを守るように実行していきましょう。日々の使用の振り返りを行うことも大切です。「やめなさい」と注意するばかりではなく、できたことはほめ、できなければ再度話し合うことが大切です。